

次世代地域公共交通ビジョン骨子（案）について

モータリゼーションの進展や人口減少、さらには運転手不足の深刻化といった時代背景を踏まえ、県を挙げて、次の世代まで「地域公共交通」を維持・確保する方策について検討を進めていく必要がある。

そこで、持続可能な地域公共交通ネットワークを構築するため、県下全域を対象に「地域公共交通」の最適化に向けた羅針盤となる「次世代地域公共交通ビジョン」を策定する。

1. 次世代地域公共交通ビジョン骨子（案）の概要

（1）現状の課題

○公共交通の縮小均衡

人口減少・モータリゼーションの進展に伴う利用者の減少 など

○顕在化する新たな“需要”

免許返納後の移動手段の確保 など

○包括的な調整機能の不足

事業者間の連携不足による並行・重複運行 など

（2）3つの柱

・交通資源の最適化 ・利便性向上 ・利用促進

（3）3つの視点

・まちづくりとの連携 ・国、自治体、事業者間の連携強化 ・役割分担の明確化

（4）処方箋

①モーダルミックスの推進

パターンダイヤの導入、駅を中心とした乗り継ぎネットワーク など

②新たな運行形態の導入

コミバス・タクシーとの連携 など

③“つなぐ”仕組みの構築

AI配車システムの実装、公共交通のオープンデータ化 など

④交通結節点の環境整備

待合所の整備、駐車場・駐輪場の整備

⑤新たな需要の創出

フリー乗車券の発行、インバウンド向け企画商品の造成

⑥地域で支える意識の醸成

利用啓発イベントの開催、公共交通の現状の周知

（詳細については「別紙」のとおり）

2. 今後のスケジュール

- ・平成31年2月頃 ビジョン（素案）を策定
- ・平成31年中 ビジョンの決定（予定）

「次世代地域公共交通ビジョン」の骨子（案）

現状の3つの大きな課題

1 公共交通の縮小均衡

- ・人口減少・モータリゼーションの進展に伴う利用者の減少
- ・運転手など労働者の不足
- ・路線の廃止・減便の拡大

2 顕在化する新たな“需要”

- ・訪日外国人観光客等の二次交通の不足
- ・免許返納後の移動手段の確保
- ・2025年問題の到来

3 包括的な調整機能の不足

- ・事業者間の連携不足による並行・重複運行
- ・広域的な調整機能の欠如
- ・担い手の多様化

地域公共交通を未来へつなぐ

～次世代地域公共交通ビジョンの3つの柱～

1 交通資源の最適化

2 利便性向上

3 利用促進

3つの視点

1 まちづくりとの連携

2 国・自治体・事業者間の連携強化

3 役割分担の明確化

6つの処方箋

① モーダルミックスの推進

- パターンダイヤの導入
- 駅を中心とした乗継ぎネットワーク
- 並行・重複路線の解消

② 新たな運行形態の導入

- コバス・タクシーとの連携
- スクールバス・福祉バスの活用
- 自家用有償運送の規制緩和

③ “つなぐ”仕組みの構築

- AI配車システムの実装
- 公共交通のオープンデータ化
- 公共交通インダストリー4.0の実装

④ 交通結節点の環境整備

- 待合所の整備
- 駐車場・駐輪場の整備

⑤ 新たな需要の創出

- フリー乗車券の発行
- インバウンド向け企画商品の造成

⑥ 地域で支える意識の醸成

- 利用啓発イベントの開催
- 公共交通の現状の周知

規制緩和

政策提言

実装

新技術（DMV・AIなど）

地域で実装

市町村がビジョンに沿い、地域の実情に応じた「地域公共交通網形成計画」、「地域公共交通再編実施計画」を策定し、未来へつなぐ地域公共交通ネットワークの実現へ！